

奈良県 県内企業動向調査

(令和3年7-9月期)

調査結果報告書

令和3年7月実施

《主要ポイント》

全体の景況

- 今期の業況DIは、前期に比べ、「好転」とした企業が2.1ポイント減少し、「悪化」とした企業が2.4ポイント増加したことから、全体では悪化幅が4.5ポイント増加し、**厳しさがやや強まった**。
- 来期の見通しについては、「悪化」とした企業は前期と変動なしであるが、「好転」とした企業が3.1ポイント減少したことから、全体では悪化幅が3.1ポイント増加し、**厳しさがやや強まる見通し**。

業種別の業況

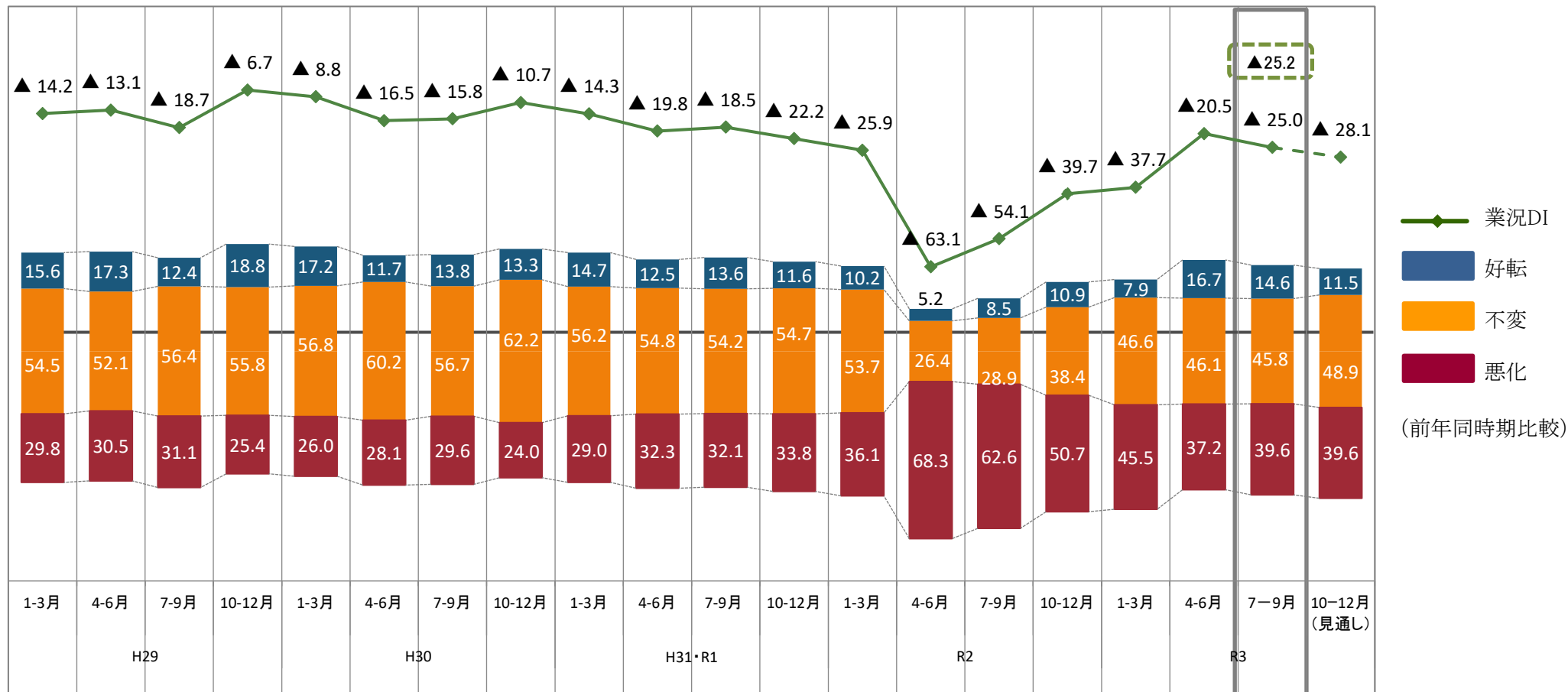
- 今期は、建設業、卸売業で厳しさが和らいだ。一方、製造業、小売業、サービス業で厳しさが強まった。特に小売業では、業況DIが15.7ポイント減少し、厳しさが強まった。
- 来期は、卸売業、小売業で厳しさが和らぐ見通し。一方、製造業は前期同様の厳しさとなり、建設業、サービス業で厳しさが強まる見通し。

1 全体概況

《業況DI(全体)》 (前年同時期比較)

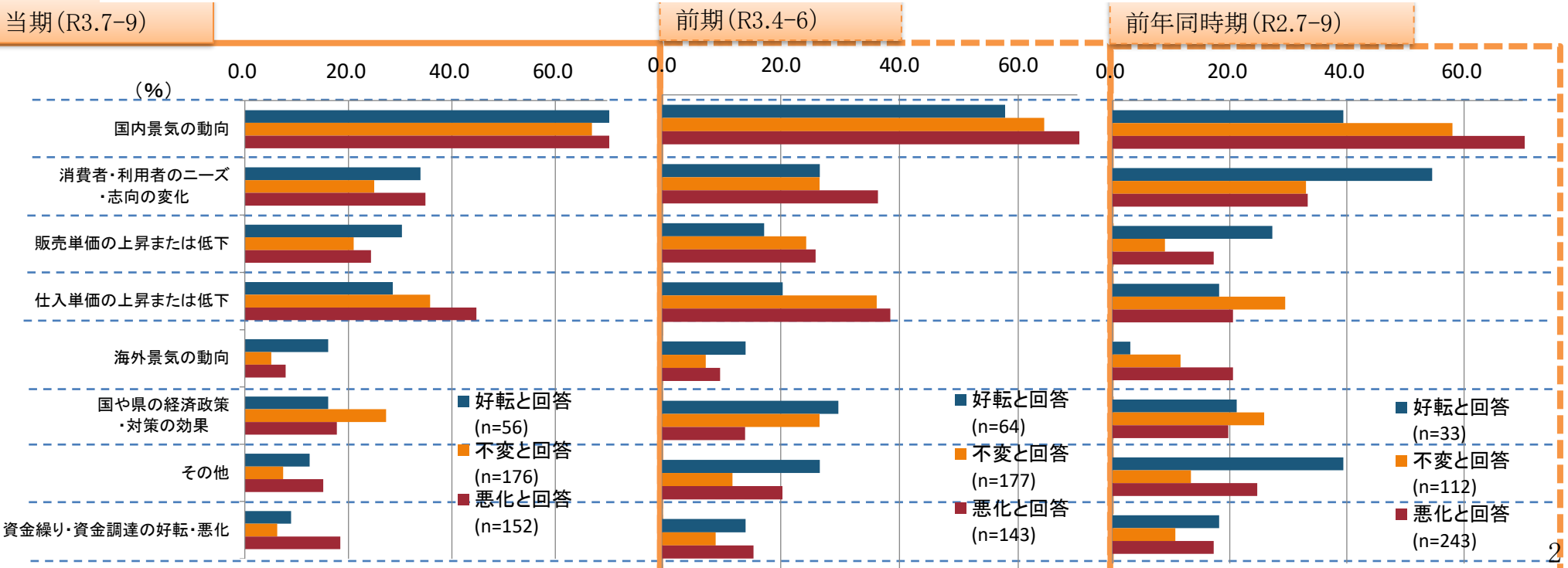
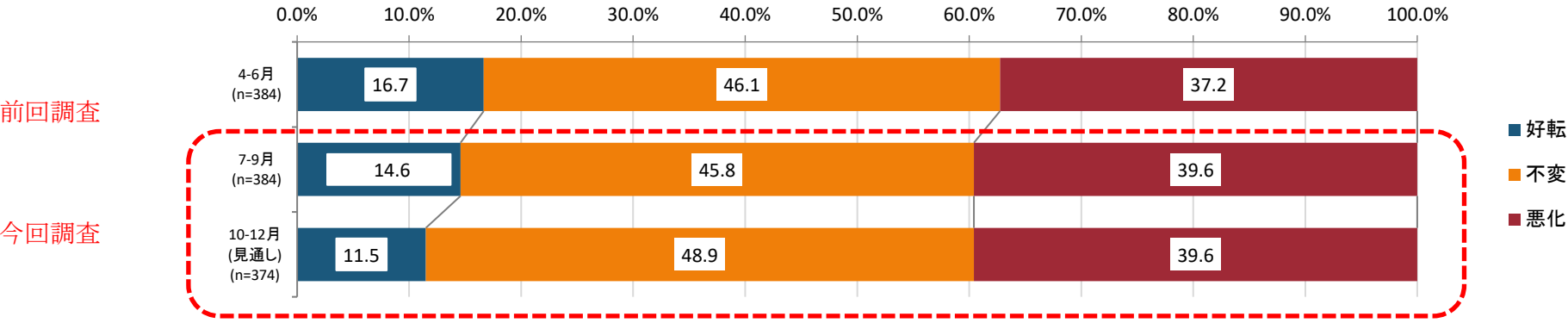
- R3.7-9月期の業況DI(好転-悪化)は、悪化幅が4.5ポイント増加し、厳しさがやや強まった。
- R3.10-12月期の業況DIは、悪化幅が3.1ポイント増加し、厳しさがやや強まる見通し。

前回調査時点(R3.4)の見通しである。



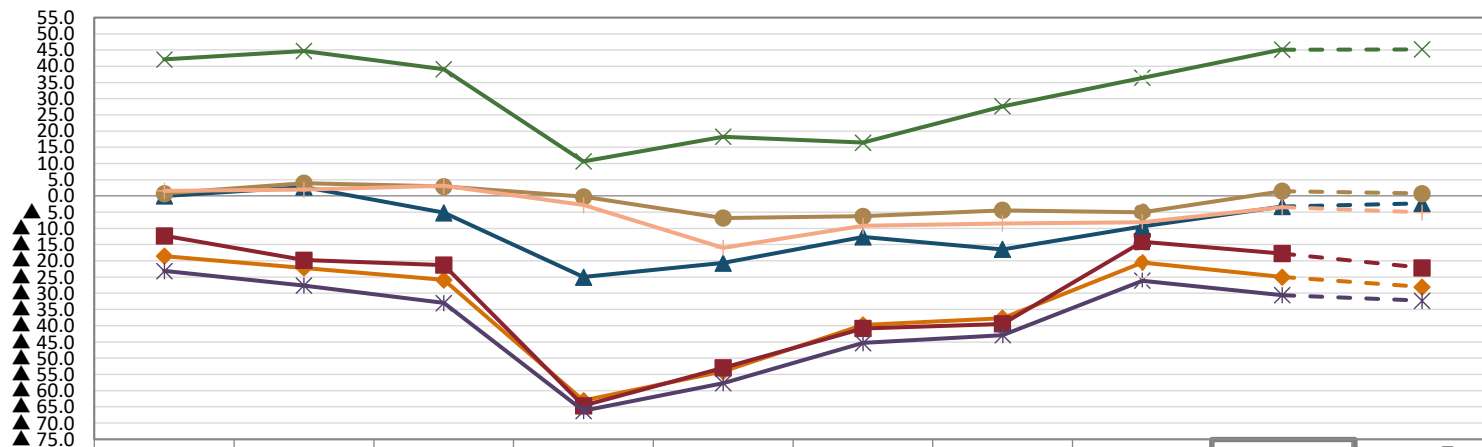
《業況判断及び判断の理由》

- 「好転」と回答した企業では、「国内景気の動向」「消費者・利用者のニーズ・志向の変化」と答えた割合が高い。
- 「悪化」と回答した企業では、「国内景気の動向」「仕入単価の上昇」と答えた割合が高い。
- 「その他」として、新型コロナウイルス感染症の影響を業況悪化の理由に挙げる企業が多く見られた。



《景況》 (前年同時期比較)

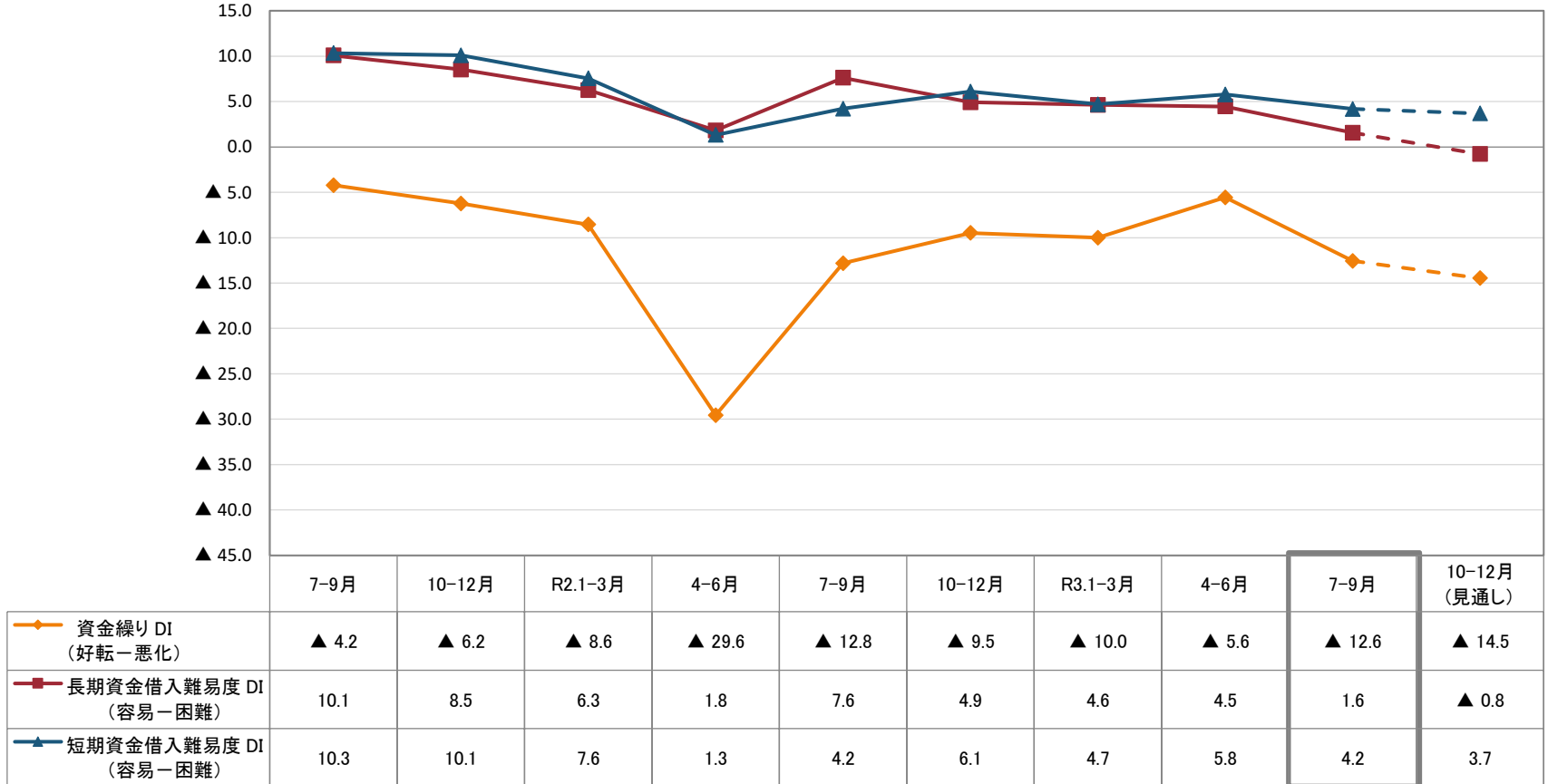
- R3.7-9月期は、在庫数DIが4.6ポイント増加し、減少傾向がやや弱まった。従業員数DIは6.5ポイント増加し、増加傾向に転じた。販売単価DIが6.1ポイント増加し、上昇傾向が強まった。一方、仕入単価DIは8.8ポイント増加し、上昇傾向が強まった。また、採算(経常利益)DIは4.5ポイント、売上額DIは3.7ポイント減少したことなどから、業況DIは4.4ポイント減少し厳しさがやや強まった。
- R3.10-12月期は、在庫数DIが1.6ポイント減少し、減少傾向がやや強まる見通し。従業員数DIは0.7ポイント減少し、増加傾向がやや弱まる見通し。販売単価DIは1.0ポイント増加し、低下傾向がやや改善する見通し。一方、仕入単価DIは増減なく推移する見通し。また、売上額DIは4.3ポイント、採算(経常利益)DIは1.7ポイント減少する見通しであることなどから、業況DIは3.1ポイント減少し厳しさがやや強まる見通し。



	7-9月	10-12月	R2.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R3.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月(見通し)
業況 DI (好転-悪化)	▲ 18.5	▲ 22.2	▲ 25.9	▲ 63.1	▲ 54.1	▲ 39.7	▲ 37.7	▲ 20.6	▲ 25.0	▲ 28.1
売上額 DI (増加-減少)	▲ 12.3	▲ 19.8	▲ 21.3	▲ 64.6	▲ 53.0	▲ 40.8	▲ 39.5	▲ 14.1	▲ 17.8	▲ 22.1
販売単価 DI (上昇-低下)	0.0	2.8	▲ 5.1	▲ 25.0	▲ 20.7	▲ 12.6	▲ 16.5	▲ 9.4	▲ 3.3	▲ 2.3
仕入単価 DI (上昇-低下)	42.1	44.7	39.1	10.7	18.3	16.4	27.7	36.4	45.2	45.2
採算(経常利益) DI (好転-悪化)	▲ 23.1	▲ 27.6	▲ 33.0	▲ 66.3	▲ 57.7	▲ 45.3	▲ 42.9	▲ 26.1	▲ 30.6	▲ 32.3
従業員数 DI (増加-減少)	0.7	4.0	2.9	▲ 0.2	▲ 6.8	▲ 6.2	▲ 4.5	▲ 5.0	1.5	0.8
在庫数 DI (増加-減少)	1.6	1.9	3.1	▲ 2.8	▲ 16.0	▲ 9.2	▲ 8.5	▲ 8.1	▲ 3.5	▲ 5.1

《資金》(前期比較)

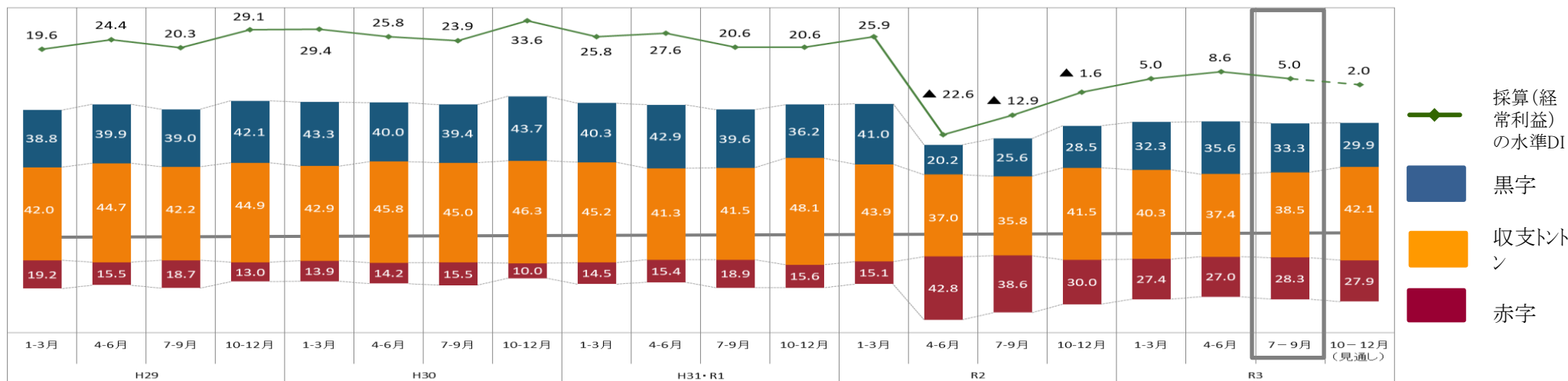
- R3.7-9月期の資金繰りDIは7.0ポイント減少し、悪化傾向が強まった。
※長期資金借入難易度DIは2.9ポイント、短期資金借入難易度DIは1.6ポイント減少し、容易さがやや縮小した。
- R3.10-12月期の資金繰りDIは1.9ポイント減少し、悪化傾向がやや強まる見通し。
※長期資金借入難易度DIは2.4ポイント、短期資金借入難易度DIも0.5ポイント減少し、容易さがやや縮小する見通し。



《業況水準》(当期判断)

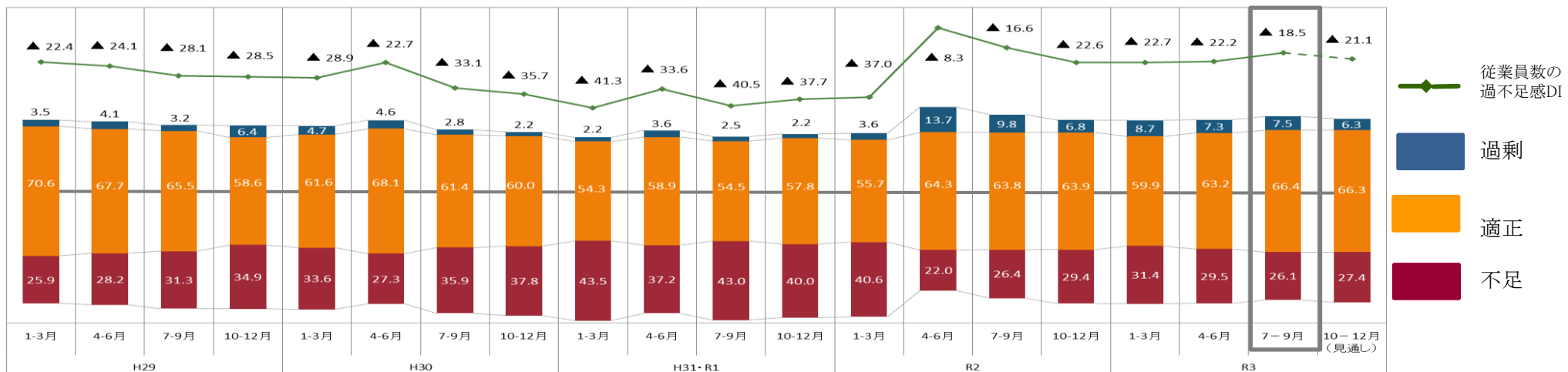
採算(経常利益)の水準DI【当期判断】

- R3.7-9月期の採算(経常利益)の水準DIは、3.6ポイント減少し、好調感がやや弱まった。
- R3.10-12月期の採算(経常利益)の水準DIは、3.0ポイント減少し、好調感がやや弱まる見通し。



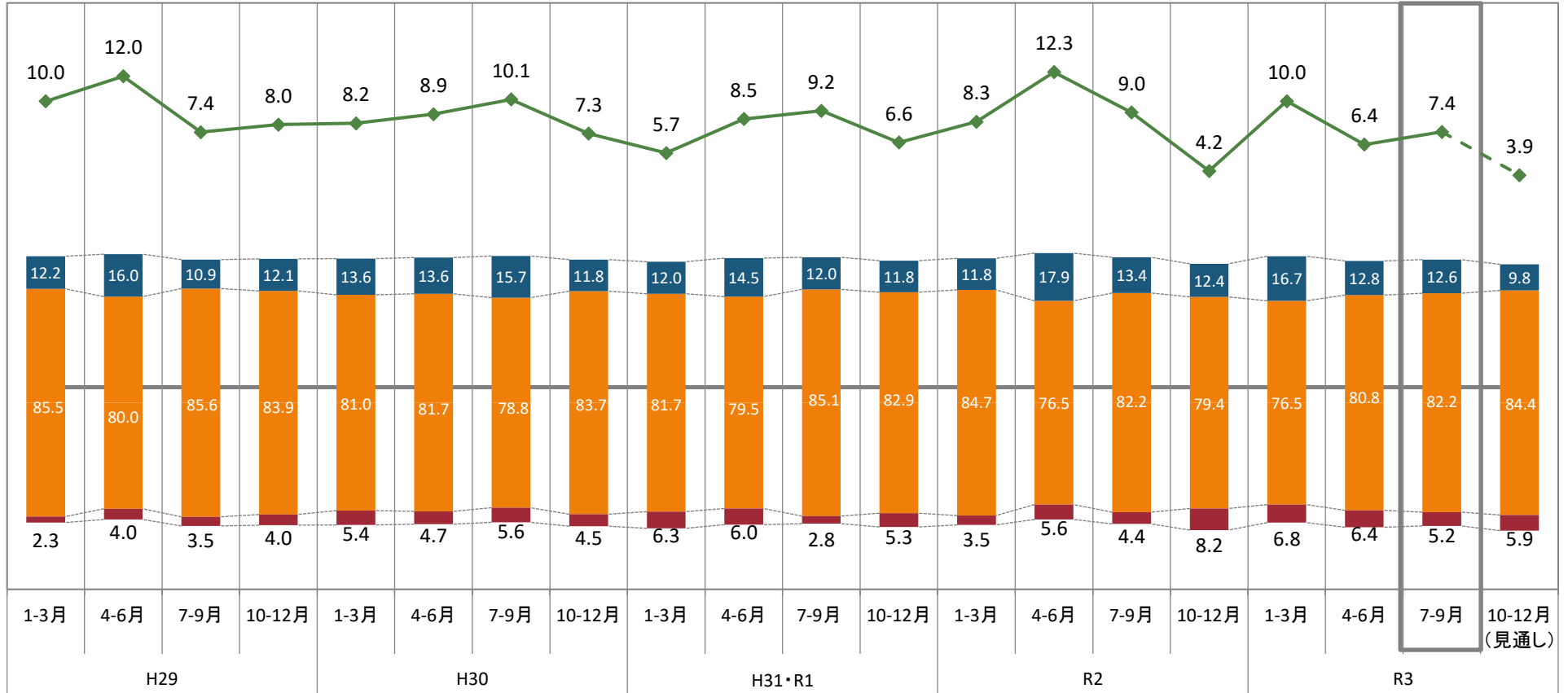
従業員数の水準(過不足感)DI【当期判断】

- R3.7-9月期の従業員数の水準DIは、3.7ポイント増加し、不足感がやや弱まった。
- R3.10-12月期の従業員数の水準DIは、2.6ポイント減少し、不足感がやや強まる見通し。



在庫数の水準(過不足感)DI【当期判断】

- R3.7-9月期の在庫数の水準DIは、1.0ポイント増加し、過剰感がやや強まった。
- R3.10-12月期の在庫数の水準DIは、3.5ポイント減少し、過剰感がやや弱まる見通し。

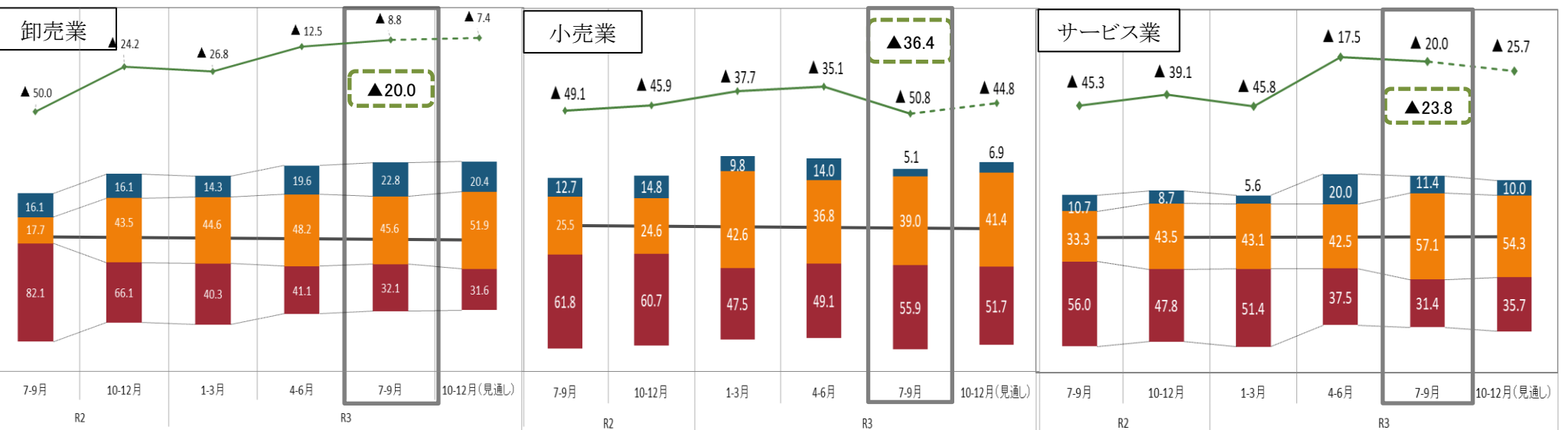
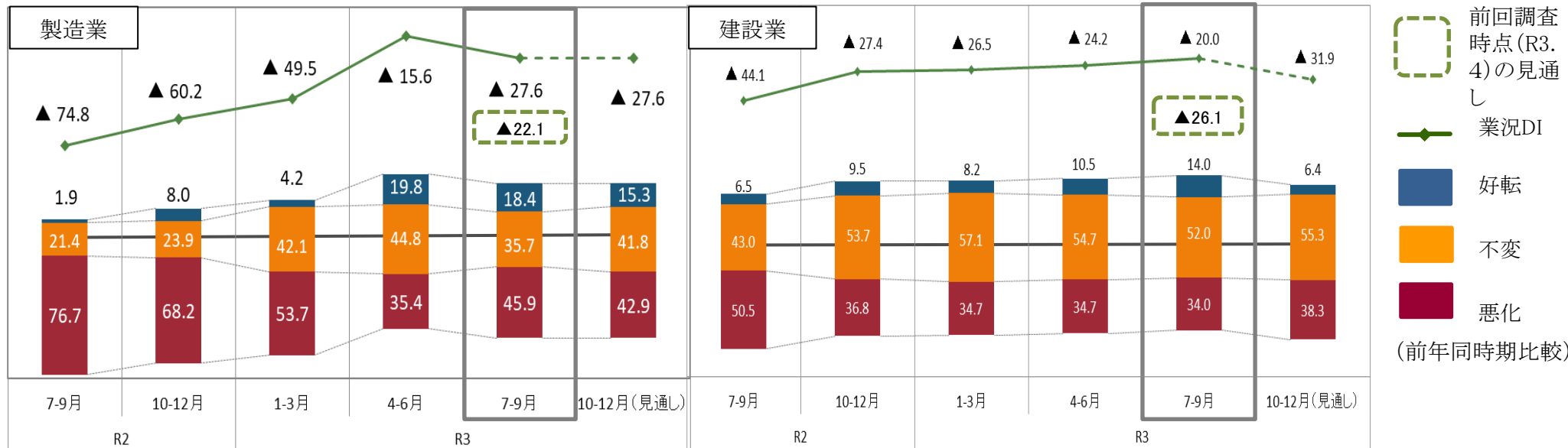


在庫数の過不足DI
 過剰
 適正
 不足

2 業況DI

《業種別業況DI》 (前年同時期比較)

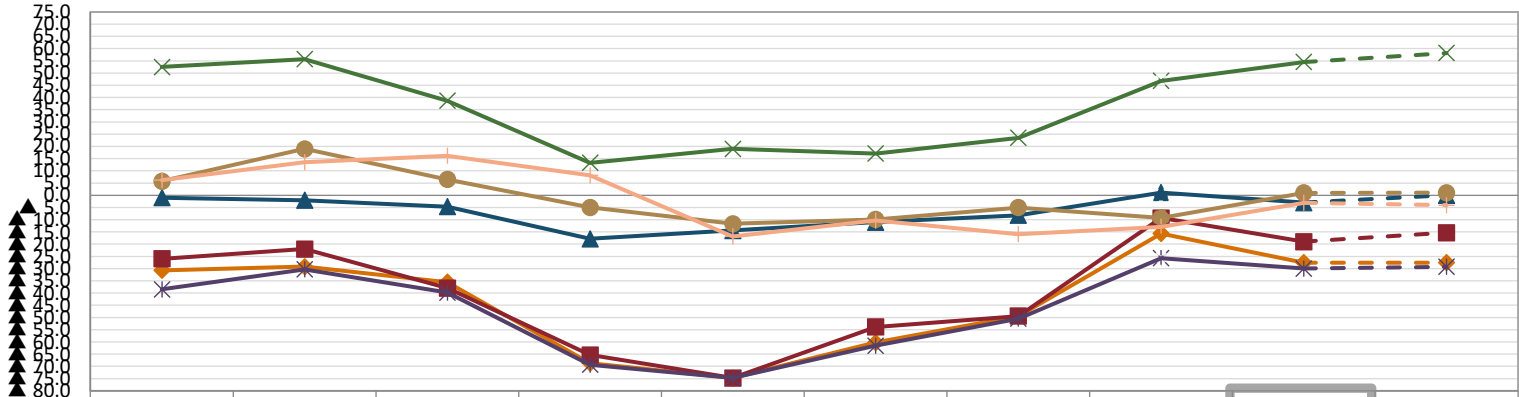
- R3.7-9月期は、建設業、卸売業で厳しさが和らいだ。一方、製造業、小売業、サービス業で厳しさが強まった。
- R3.10-12月期は、卸売業、小売業で厳しさが和らぐ見通し。一方、製造業は前期同様の厳しさとなり、建設業、サービス業で厳しさが強まる見通し。



3 業種別の景況

製造業

- R3.7-9月期は、在庫数DIが9.8ポイント増加し、減少傾向が弱まった。従業員数DIは10.3ポイント増加し、増加傾向に転じた。仕入単価DIは7.7ポイント増加し、上昇傾向が強まった。販売単価DIは4.0ポイント減少し、低下傾向に転じた。また、売上額DIは9.7ポイント、採算(経常利益)DIは4.2ポイント減少したことなどから、業況DIは12.0ポイント減少し厳しさが強まった。
- R3.10-12月期は、在庫数DIが1.0ポイント減少し、減少傾向がやや強まる見通し。従業員数DIは前期並の増加傾向が続く見通し。販売単価DIは3.0ポイント、売上額DIは3.7ポイント、採算(経常利益)DIは0.7ポイント増加する見通し。一方、仕入単価DIは3.7ポイント増加し上昇傾向がやや強まる見通しであることなどから、業況DIは前期同様の厳しさが続く見通し。

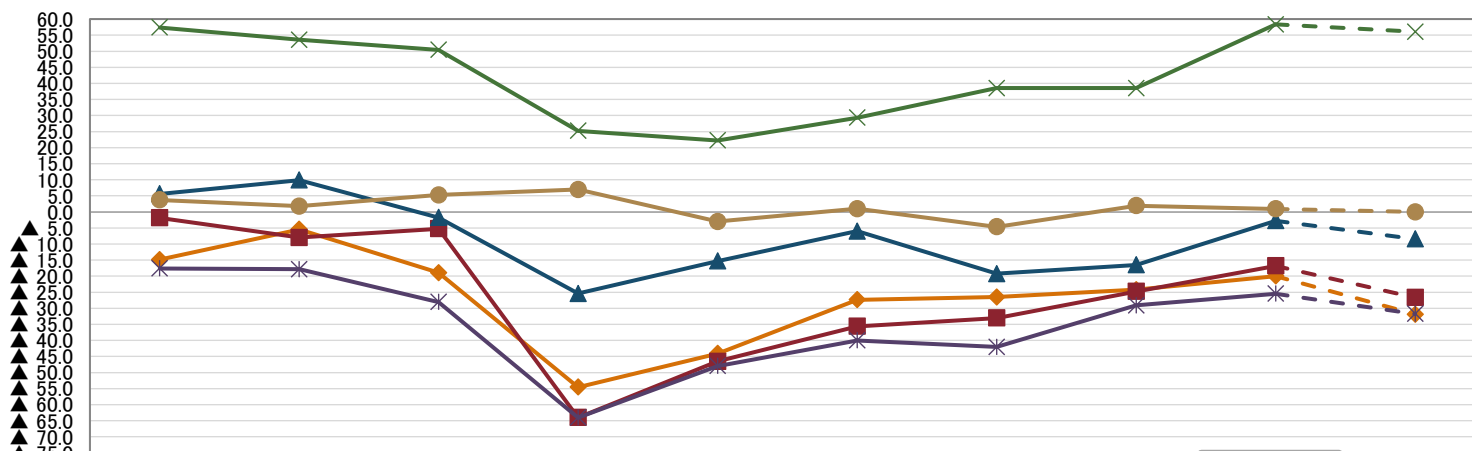


	7-9月	10-12月	R2.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R3.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月 (見通し)
業況 DI(好転-悪化)	▲ 30.7	▲ 29.2	▲ 35.6	▲ 68.7	▲ 74.8	▲ 60.2	▲ 49.5	▲ 15.6	▲ 27.6	▲ 27.6
売上額 DI(増加-減少)	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 38.0	▲ 65.3	▲ 74.8	▲ 53.8	▲ 49.5	▲ 9.3	▲ 19.0	▲ 15.3
販売単価 DI(上昇-低下)	▲ 1.0	▲ 2.0	▲ 4.6	▲ 17.8	▲ 14.4	▲ 11.0	▲ 8.2	1.0	▲ 3.0	0.0
仕入単価 DI(上昇-低下)	52.5	55.7	38.7	13.3	19.0	17.0	23.4	46.8	54.5	58.2
採算(経常利益) DI(好転-悪化)	▲ 38.5	▲ 30.3	▲ 39.8	▲ 69.3	▲ 74.8	▲ 61.5	▲ 50.5	▲ 25.8	▲ 30.0	▲ 29.3
従業員数 DI(増加-減少)	5.8	19.0	6.5	▲ 5.0	▲ 11.7	▲ 9.9	▲ 5.1	▲ 9.3	1.0	1.0
在庫数 DI(増加-減少)	6.2	13.5	16.2	8.2	▲ 16.8	▲ 10.3	▲ 16.0	▲ 12.9	▲ 3.1	▲ 4.1

(前年同時期比較)

建設業

- R3.7-9月期は、従業員数DIが1.0ポイント減少し、増加傾向がやや弱まった。仕入単価DIは19.8ポイント増加し、上昇傾向が強まった。一方、販売単価DIは13.7ポイント、売上額DIは8.0ポイント、採算(経常利益)DIは3.6ポイント増加したことなどから、業況DIは4.2ポイント増加し厳しさがやや和らいだ。
- R3.10-12月期は、従業員数DIが0.9ポイント減少し、±0となる見通し。仕入単価DIは2.2ポイント減少し上昇傾向がやや改善する見通し。一方、販売単価DIは5.6ポイント減少し低下傾向が強まる見通し。また、売上額DIは9.9ポイント、採算(経常利益)DIは6.2ポイント減少する見通しであることなどから、業況DIは11.9ポイント減少し厳しが強まる見通し。

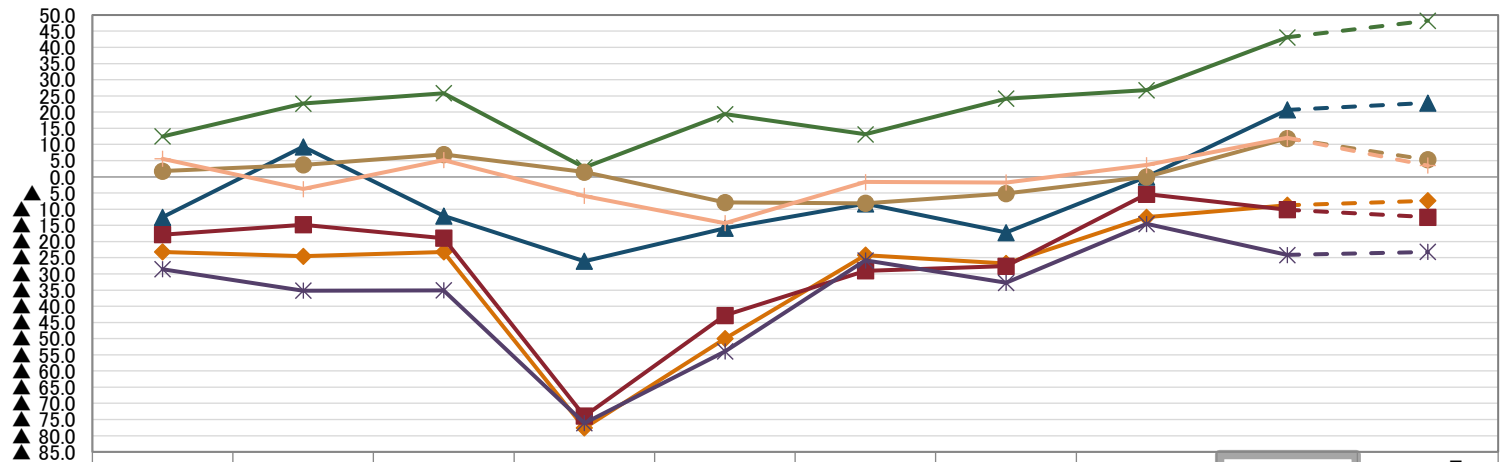


	7-9月	10-12月	R2.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R3.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月(見通し)
業況 DI(好転-悪化)	▲ 14.9	▲ 5.5	▲ 18.9	▲ 54.5	▲ 44.1	▲ 27.4	▲ 26.5	▲ 24.2	▲ 20.0	▲ 31.9
売上額 DI(増加-減少)	▲ 1.9	▲ 8.0	▲ 5.3	▲ 64.0	▲ 46.5	▲ 35.6	▲ 33.0	▲ 24.8	▲ 16.8	▲ 26.7
販売単価 DI(上昇-低下)	5.6	9.9	▲ 1.8	▲ 25.4	▲ 15.3	▲ 6.0	▲ 19.3	▲ 16.5	▲ 2.8	▲ 8.4
仕入単価 DI(上昇-低下)	57.4	53.6	50.5	25.2	22.2	29.3	38.5	38.5	58.3	56.1
採算(経常利益) DI(好転-悪化)	▲ 17.6	▲ 17.9	▲ 28.1	▲ 64.0	▲ 48.0	▲ 40.0	▲ 42.1	▲ 29.1	▲ 25.5	▲ 31.7
従業員数 DI(増加-減少)	3.7	1.8	5.3	7.0	▲ 3.0	1.0	▲ 4.6	1.9	0.9	0.0

(前年同時期比較)

卸売業

- R3.7-9月期は、在庫数DIが8.5ポイント増加し、増加傾向が強まった。従業員数DIは11.9ポイント増加し、増加傾向に転じた。仕入単価は16.3ポイント増加し、上昇傾向が強まった。また、売上額DIは4.8ポイント、採算(経常利益)DIは9.6ポイント減少した。一方、販売単価DIは20.7ポイント増加し上昇傾向が大きく強まったことなどから、業況DIは3.7ポイント増加し厳しさがやや弱まった。
- R3.10-12月期は、在庫数DIが8.6ポイント、従業員数DIが6.6ポイント減少し、増加傾向が弱まる見通し。仕入単価DIは5.1ポイント増加し上昇傾向が強まり、売上額DIは2.3ポイント減少し減少傾向がやや強まる見通し。一方、販売単価DIは2.1ポイント、採算(経常利益)DIは0.9ポイント増加する見通しであることなどから、業況DIは1.4ポイント増加し厳しさがやや弱まる見通し。

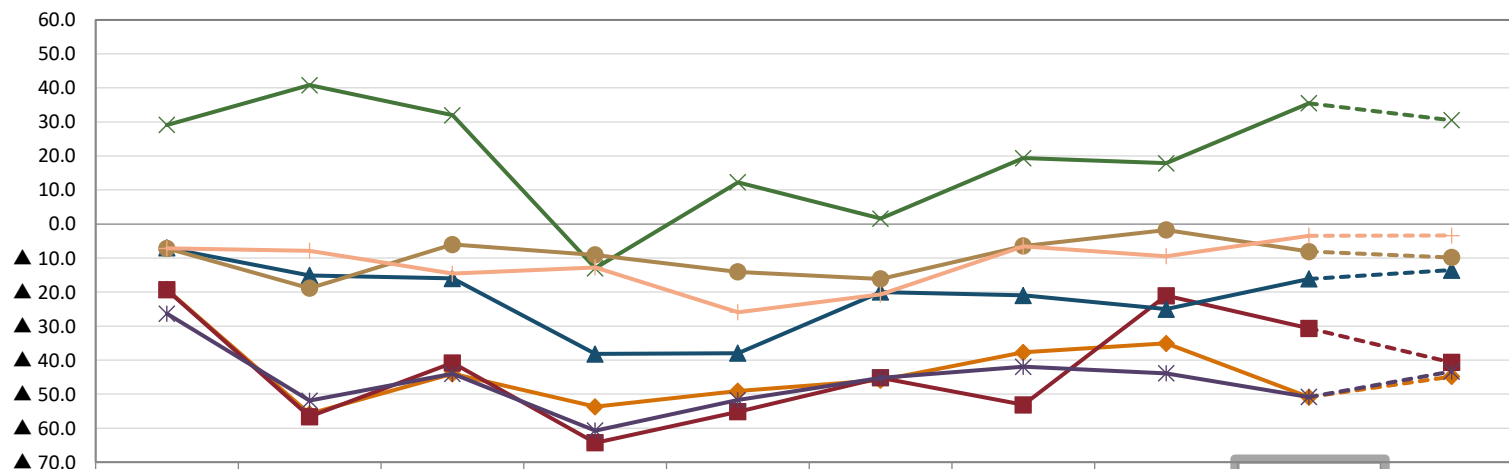


	7-9月	10-12月	R2.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R3.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月(見通し)
業況 DI(好転-悪化)	▲ 23.2	▲ 24.5	▲ 23.2	▲ 77.6	▲ 50.0	▲ 24.2	▲ 26.8	▲ 12.5	▲ 8.8	▲ 7.4
売上額 DI(増加-減少)	▲ 17.9	▲ 14.8	▲ 19.0	▲ 73.9	▲ 42.9	▲ 29.0	▲ 27.6	▲ 5.4	▲ 10.2	▲ 12.5
販売単価 DI(上昇-低下)	▲ 12.5	9.3	▲ 12.1	▲ 26.1	▲ 15.9	▲ 8.3	▲ 17.2	0.0	20.7	22.8
仕入単価 DI(上昇-低下)	12.5	22.6	25.9	2.9	19.4	13.1	24.1	26.8	43.1	48.2
採算(経常利益) DI(好転-悪化)	▲ 28.6	▲ 35.2	▲ 35.1	▲ 76.1	▲ 54.0	▲ 25.8	▲ 32.8	▲ 14.5	▲ 24.1	▲ 23.2
従業員数 DI(増加-減少)	1.8	3.7	6.9	1.5	▲ 7.9	▲ 8.2	▲ 5.2	0.0	11.9	5.3
在庫数 DI(増加-減少)	5.6	▲ 3.8	5.2	▲ 5.9	▲ 14.3	▲ 1.6	▲ 1.8	3.6	12.1	3.5

(前年同時期比較)

小売業

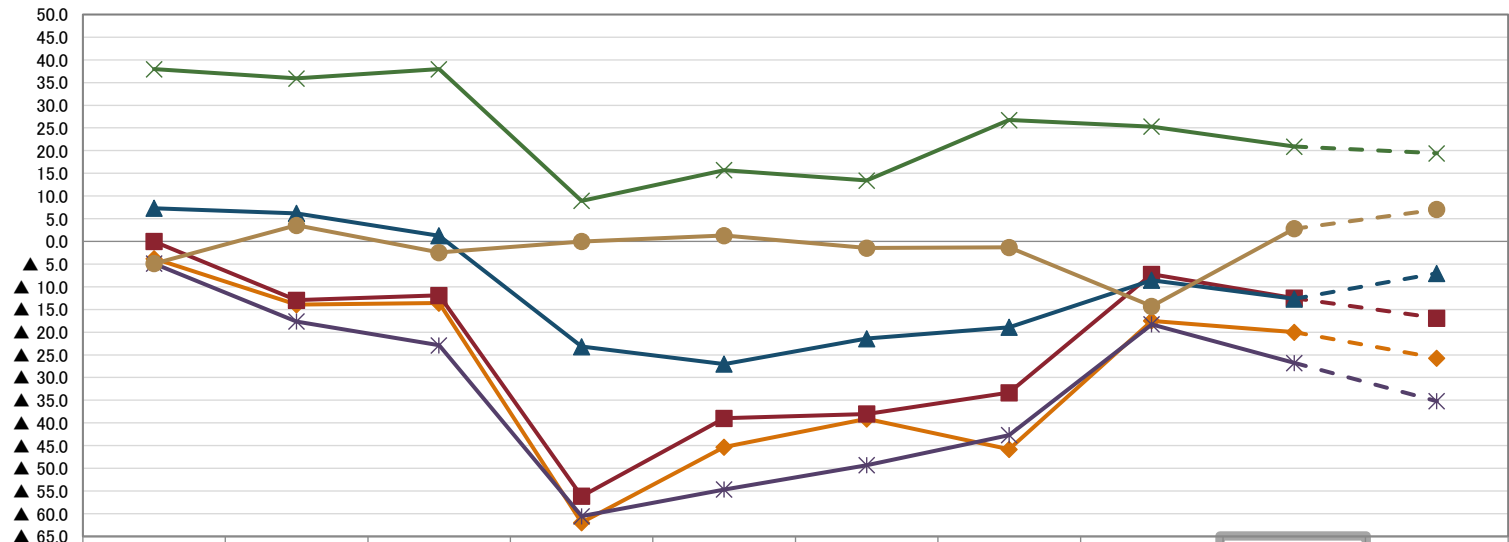
- R3.7-9月期は、在庫数DIが6.0ポイント増加し、減少傾向が弱まった。従業員数DIは6.3ポイント減少し、減少傾向が強まった。販売単価DIは8.9ポイント増加し、低下傾向が改善した。一方、仕入単価DIは17.6ポイント増加し、上昇傾向が強まった。また、売上額DIは9.5ポイント、採算(経常利益)DIは6.9ポイント減少したことなどから、業況DIは15.7ポイント減少し厳しさが強まった。
- R3.10-12月期は、在庫数DIが前期並みの減少傾向が続く見通し。従業員数DIは1.7ポイント、売上額DIは10.1ポイント減少し減少傾向が強まる見通し。一方、販売単価DIは2.5ポイント、採算(経常利益)DIは7.5ポイント増加する見通し。また、仕入単価DIは5.0ポイント減少し上昇傾向が改善する見通しであることなどから、業況DIは6.0ポイント増加し厳しさが弱まる見通し。



	7-9月	10-12月	R2.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R3.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月(見通し)
業況DI(好転-悪化)	▲ 19.2	▲ 55.8	▲ 44.0	▲ 53.7	▲ 49.1	▲ 45.9	▲ 37.7	▲ 35.1	▲ 50.8	▲ 44.8
売上額DI(増加-減少)	▲ 19.3	▲ 56.6	▲ 40.8	▲ 64.3	▲ 55.2	▲ 45.2	▲ 53.1	▲ 21.1	▲ 30.6	▲ 40.7
販売単価DI(上昇-低下)	▲ 7.0	▲ 15.1	▲ 16.0	▲ 38.2	▲ 37.9	▲ 20.0	▲ 21.0	▲ 25.0	▲ 16.1	▲ 13.6
仕入単価DI(上昇-低下)	29.1	40.8	32.0	▲ 13.0	12.3	1.6	19.4	17.9	35.5	30.5
採算(経常利益)DI(好転-悪化)	▲ 26.3	▲ 51.9	▲ 44.0	▲ 60.7	▲ 51.7	▲ 45.2	▲ 41.9	▲ 43.9	▲ 50.8	▲ 43.3
従業員数DI(増加-減少)	▲ 7.1	▲ 18.9	▲ 6.0	▲ 9.1	▲ 14.0	▲ 16.1	▲ 6.5	▲ 1.8	▲ 8.1	▲ 9.8
在庫数DI(増加-減少)	▲ 7.1	▲ 7.8	▲ 14.6	▲ 12.7	▲ 25.9	▲ 20.7	▲ 6.6	▲ 9.4	▲ 3.4	▲ 3.4

サービス業

- R3. 7-9月期は、従業員数DIが17.1ポイント増加し、増加傾向に転じた。仕入単価DIは4.4ポイント減少し、上昇傾向がやや弱まった。一方、販売単価DIは4.2ポイント減少し、低下傾向がやや弱まった。また、売上額DIは5.3ポイント、採算(経常利益)DIは8.5ポイント減少したことなどから、業況DIは2.5ポイント減少し厳しさがやや強まった。
- R3.10-12月期は、従業員数DIが4.2ポイント増加し、増加傾向がやや強まる見通し。販売単価DIは5.7ポイント増加し低下傾向が改善し、仕入単価DIは1.5ポイント減少し上昇傾向がやや改善する見通し。一方、売上額DIは4.4ポイント、採算(経常利益)DIは8.4ポイント減少する見通しであることなどから、業況DIは5.7ポイント減少し厳しさが強まる見通し。



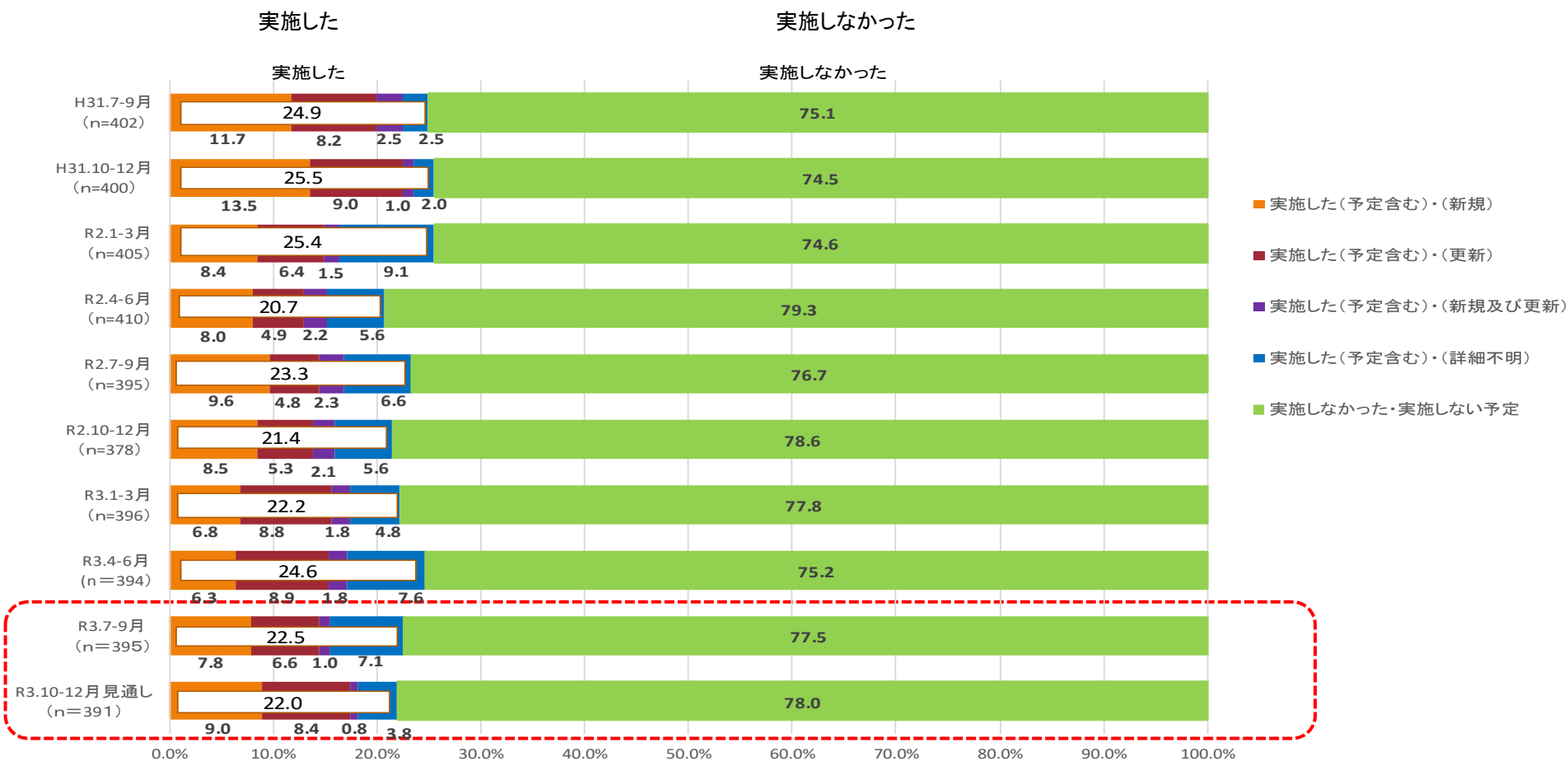
	7-9月	10-12月	R2.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	R3.1-3月	4-6月	7-9月	10-12月(見通し)
業況 DI(好転-悪化)	▲ 3.8	▲ 14.0	▲ 13.6	▲ 62.0	▲ 45.3	▲ 39.1	▲ 45.8	▲ 17.5	▲ 20.0	▲ 25.7
売上額 DI(増加-減少)	0.0	▲ 12.9	▲ 11.9	▲ 56.2	▲ 39.0	▲ 38.0	▲ 33.3	▲ 7.2	▲ 12.5	▲ 16.9
販売単価 DI(上昇-低下)	7.3	6.2	1.3	▲ 23.2	▲ 27.0	▲ 21.4	▲ 18.9	▲ 8.5	▲ 12.7	▲ 7.0
仕入単価 DI(上昇-低下)	38.0	35.9	38.0	9.0	15.7	13.4	26.8	25.3	20.9	19.4
採算(経常利益) DI(好転-悪化)	▲ 4.9	▲ 17.6	▲ 22.9	▲ 60.6	▲ 54.7	▲ 49.3	▲ 42.7	▲ 18.3	▲ 26.8	▲ 35.2
従業員数 DI(増加-減少)	▲ 4.9	3.5	▲ 2.4	0.0	1.3	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 14.3	2.8	7.0

(前年同時期比較)

4 設備投資

設備投資実施割合(全体)

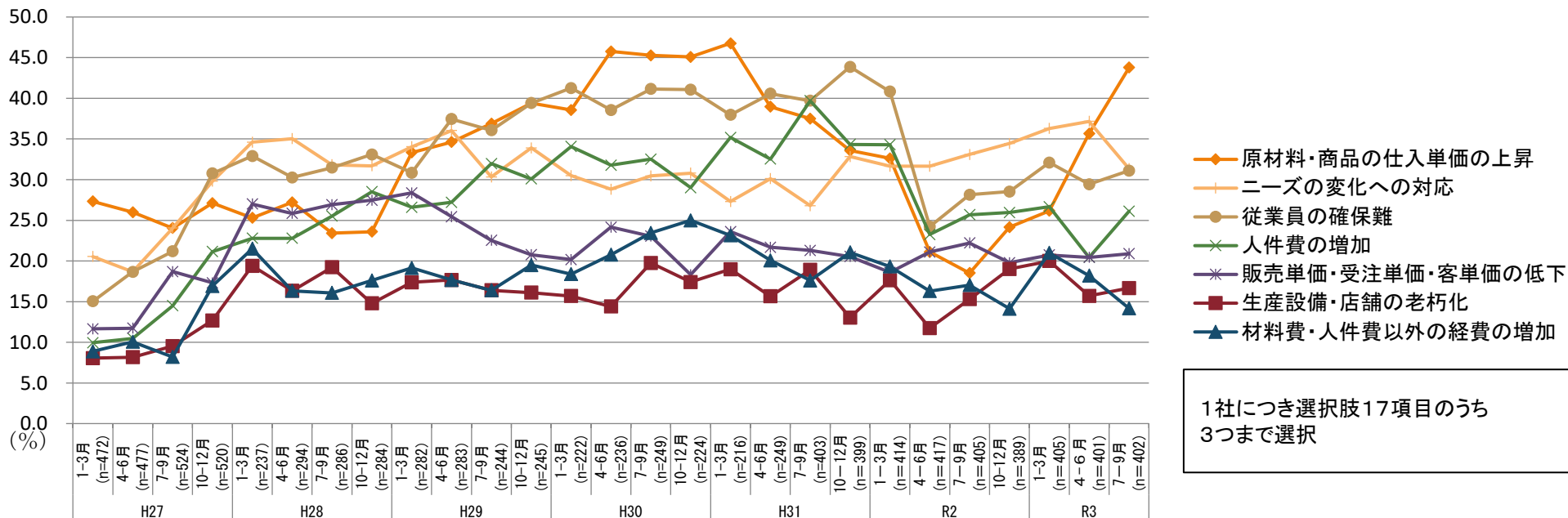
- R3.7-9月期は、設備投資を実施した企業は22.5%（うち新規:7.8%、更新:6.6%、新規及び更新:1.0%、詳細不明:7.1%）で、前期より割合はやや減少したが、引き続き2割を上回る結果となった。また、設備投資を実施しなかった企業は77.5%であった。
- R3.10-12月期は、設備投資を実施予定の企業の割合は0.5ポイント減少するものの、2割を上回る見通し。



5 経営上の問題点

- 「原材料・商品の仕入単価の上昇」が、今回最も割合の高い課題となっている。「ニーズの変化への対応」「従業員の確保難」は、前期に引き続き割合の高い課題となっている。また業種別の課題を確認すると、全ての業種において「ニーズの変化への対応」を上位の課題に挙げている。「その他」として、新型コロナウイルス感染症の影響を課題に挙げる企業が依然として多く見られた。

経営上の問題点（全体）



業種別(R3.7-9月期)

	第1位	(%)	第2位	(%)	第3位	(%)
製造業	原材料・材料・商品の仕入単価の上昇	51.5	生産設備・店舗の老朽化	33.7	ニーズの変化への対応	30.7
建設業	原材料・材料・商品の仕入単価の上昇	53.7	従業員の確保難	40.7	ニーズの変化への対応	23.1
卸売業	原材料・材料・商品の仕入単価の上昇	52.5	販売単価・受注単価・客単価の低下	35.6	ニーズの変化への対応	33.9
小売業	ニーズの変化への対応	43.5	原材料・材料・商品の仕入単価の上昇	33.9		
サービス業	従業員の確保難	37.5	ニーズの変化への対応	31.9	人件費の増加	30.6

調査概要

- ① 調査目的 奈良県内の企業・事業所の動向を定期的に調査、把握することで足下の景況等を把握し、産業政策の企画立案に活用する。
- ② 調査時期 令和3年7月
- ③ 調査対象期間 令和3年7月～令和3年9月(実績)、令和3年10月～令和3年12月(実績・見通し)
- ④ 調査対象 奈良県内の企業および事業所 972社

※調査対象企業の見直しについて

令和元年7-9月期調査から、調査精度の向上を目的として調査対象企業の見直しを行いました。
前回調査までとできる限り産業別比率を等しくしましたが、厳密には連続性を欠くことに御留意下さい。

- ⑤ 調査方法 郵送アンケート
- ⑥ 回収状況 有効回答402件(回収率41.4%)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
合計	101(6)	108(1)	59(2)	62(8)	72(5)	402(22)
産業別比率	25.1%	26.9%	14.7%	15.4%	17.9%	

()の数字は大企業数

小売業 : 飲食業を含む

サービス業 : 生活関連サービス業・娯楽業・物品賃貸業・宿泊業 等

⑦ 集計方法

※ DI=Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)

「増加(好転・上昇・過剰等)」と回答した事業所数の構成比から「減少(悪化・低下・不足等)」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値。0を基準として、プラスの場合は増加(好転・上昇・過剰等)の回答が多く、マイナスの場合は、減少(悪化・低下・不足等)の回答が多いことを示す。

業況DI・採算(経常利益)DI・…………… 前年同時期と比較した「好転－悪化」

売上額DI・従業員数DI・在庫数DI・…………… 前年同時期と比較した「増加－減少」

販売単価DI・仕入単価DI・…………… 前年同時期と比較した「上昇－低下」

資金繰りDI・…………… 3カ月前と比較した「好転－悪化」

長期資金借入難易度DI、短期資金借入難易度DI・… 3カ月前と比較した「容易－困難」

採算(経常利益)の水準DI・…………… 比較ではなく各期の状況としての「黒字－赤字」

従業員数の水準DI・在庫数の水準DI・…………… 比較ではなく各期の状況としての「過剰－不足」

※ 図表の数値は小数点第1位までの記入(小数点第2位を四捨五入)した数値です。

そのため、合計が100.0%に戻らない場合があります。

奈良県産業・観光・雇用振興部産業政策課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
TEL:0742-27-7005
FAX:0742-27-4473
HP <http://www.pref.nara.jp/40351.htm>